

平成 20 年度 第 3 回八戸市地域公共交通会議資料

各調査の実施状況（途中経過）について

目 次

1. 各調査の概要.....	1
2. バス乗降特性調査概要.....	3
3. 八戸駅アンケート調査結果	5
4. 八戸駅バス乗降調査結果.....	10

平成 21 年 1 月 28 日

八戸市地域公共交通会議

1. 各調査の概要

1.1. 調査構成、調査目的

各調査と調査対象・方法、調査目的を整理する。

現在、各調査は実施済みであり、八戸駅乗降遅延調査、八戸市民アンケート調査以外は集計済みである。

調査名（調査日）	調査対象・方法など	調査目的
乗降特性調査 （H20.11.26(水)）	調査対象 3 社 18 路線のバス利用者へのアンケート(手渡しし、車内で回収 2,660 枚)	・ バス再編・活性化、サービス向上のための利用者データ収集
八戸駅アンケート調査 （H20.12.10(水)）	八戸駅鉄道利用者へのアンケートを手渡し配布郵送回収（150 人）	・ 八戸駅線共同運行化フォローアップ ・ バス再編・活性化、サービス向上のためのデータ収集
八戸駅乗降・遅延調査 （H20.12.10(水)）	八戸駅バスプール 6 時～22:30 出発・到着分の乗降、遅延時間の計測（集計中）	・ 八戸駅線共同運行化フォローアップ調査
八戸市民アンケート調査 （H21.1.6～1.21）	調査対象 18 路線沿線市民への配布・郵送回収（H21.1.27 現在 1,145 票、現在集計中）	・ バス再編・活性化、サービス向上のための市民意向把握
バス事業者ヒアリング調査 （H21.1.19 他）	バス会社 3 社への(随時ヒアリング実施)	・ 八戸駅線共同運行化フォローアップ評価 ・ バス連携施策についての事業者意向把握

1.2. 調査概要

(1) 乗降特性調査

- ・ H20.11.26 実施

- ・ 調査対象：八戸駅線等 18 路線
- ・ 調査方法：
 - 調査員により調査票を手渡し
 - バス車内で回収
- ・ 回収数 2,660 票
- ・ 調査項目：
 - 乗降バス停 / 運賃支払い方法
 - 利用目的 / 年齢・性別
 - バス停からの時間

バス交通調査についてのお願い

いつもバスをご利用いただきましてありがとうございます。
 バスの利用状況を把握するため、下記のとおりバス交通調査を実施します。
 ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

実施日・実施路線


平成 20 年 11 月 26 日、以下の路線の一部の便で調査をします。

- ・ 八戸駅線・新台団地線・飯沼
- ・ 多賀谷団地線・尾川団地線・八戸ニュータウン線
- ・ シルバー病院線・日計線・鹿谷線・市ノ宮線・大野線

調査協力をお願い

ご乗車の際にお渡しする『調査カード』にご記入の上、降車の際に運転席後の回収箱にお入れ下さい。

平成 20 年 11 月
八戸市地域公共交通会議



乗降調査への協力を呼びかけるチラシ

(2) 八戸駅アンケート調査

- ・ H20.12.10 実施
- ・ 調査対象：八戸駅鉄道利用者
- ・ 調査方法：
 - 調査員により八戸駅改札前で
 - 調査票を手渡し郵送回収
- ・ 回収数 150 票（回収率 11.6%）
- ・ 調査項目：
 - 八戸駅利用状況/乗車列車と路線・種別
 - 列車利用目的/鉄道アクセス交通手段/
 - 目的地/バスに乗って困ったこと/共同
 - 運行に対する評価/バスの非利用理由
 - バスの改善方法（自由記述）



八戸駅アンケート、乗降・遅延調査位置

(3) 八戸駅乗降・遅延調査

- ・ H20.12.10（6～22:30 実施）
- ・ 調査対象：八戸駅前バス乗り場発着バス
- ・ 調査項目：バス別乗降人数・遅延時間

(4) 八戸市民アンケート調査

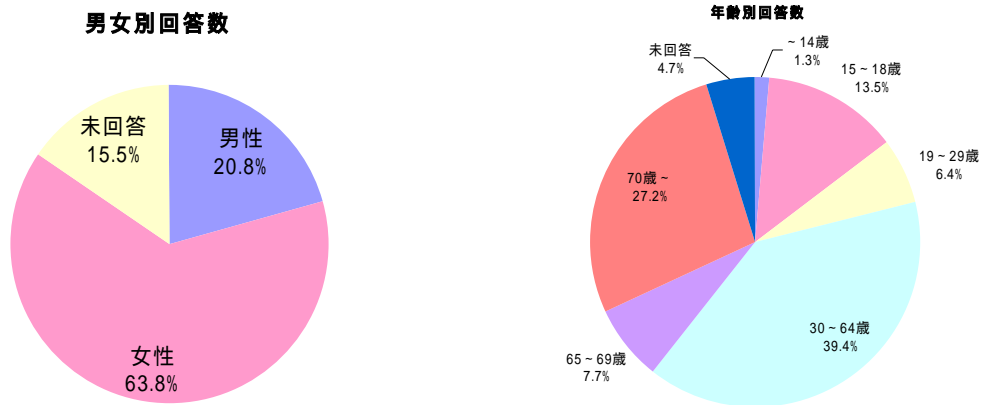
- ・ H21.1.6～1.21 実施
- ・ 調査対象：八戸駅線沿線等市内 18 路線沿線市民
- ・ 調査方法：ポスティング等で世帯に 1 通（2 票入）ずつ配布し郵送回収
- ・ 回収数 1,145 票（H21.1.27 現在回収率 17.7%：封筒回収率は 21.8%）
- ・ 調査項目：外出目的・目的地・外出時間・移動手段/バス利用理由・非利用理由/バス乗車時に困った点/バスサービスへの満足度と改善方法/自由意見（八戸駅線は共同運行に対する認知状況や評価）

2. バス乗降特性調査概要

(1) 回答総数

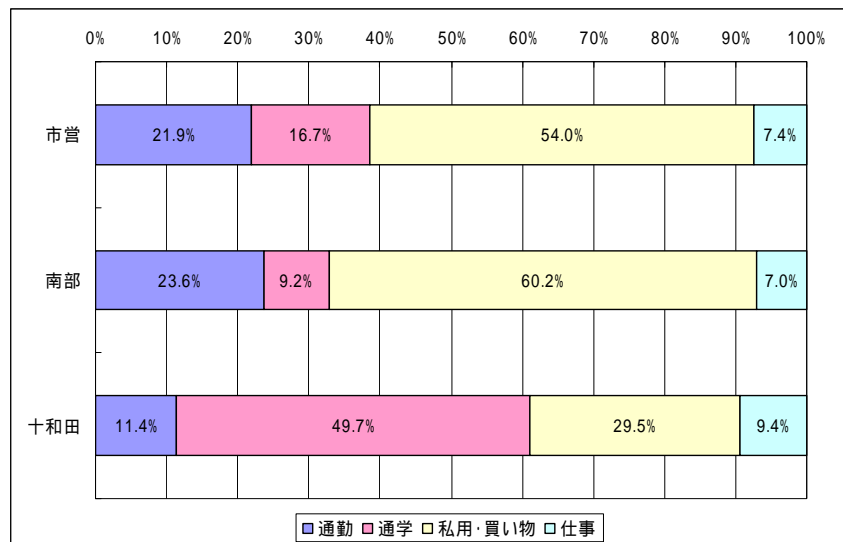
回答総数は 2,660 人 (調査対象 18 路線)

(2) 回答者の特性



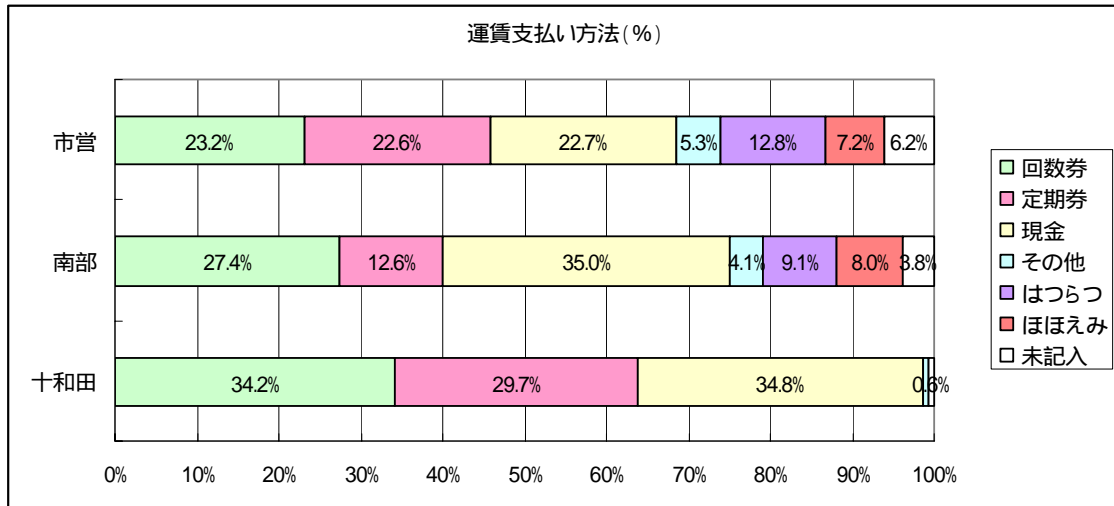
(3) バス利用の目的

市営バス、南部バスは使用、買物目的、十和田観光電鉄は通学目的が多い。



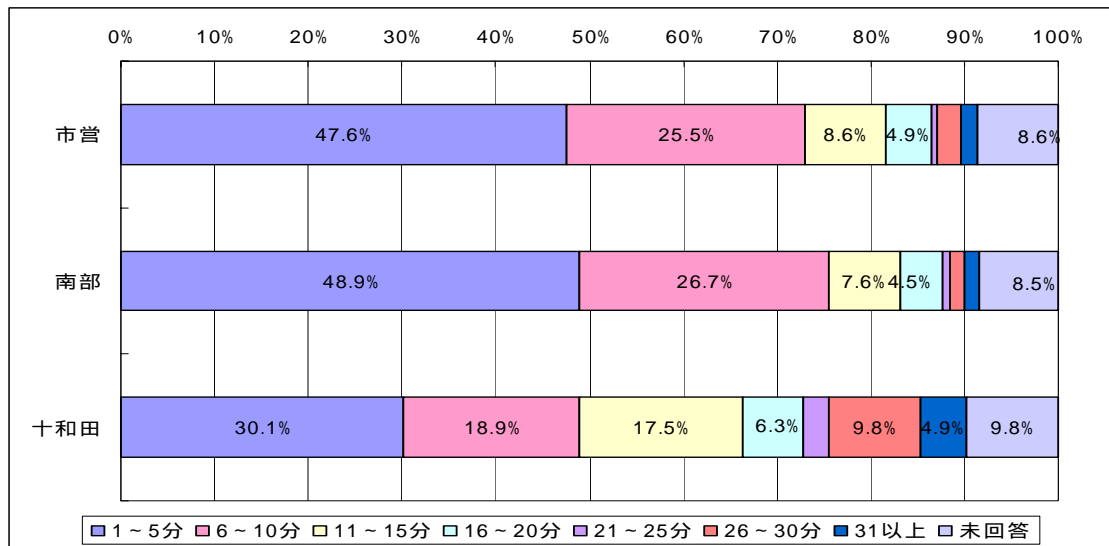
(4) 運賃支払い方法

十和田観光電鉄は回数券や定期券、現金での支払いがほぼ三分される。市営バス・南部バスの運賃支払い方法は多様である。



(5) 自宅からバス停までの距離

1～5分という回答が多い。十和田観光電鉄は6分以上との回答も多い。



(6) バス停間乗降OD

中心部と各地区、八戸駅と日赤病院、田面木間等が多い乗降ペアである。

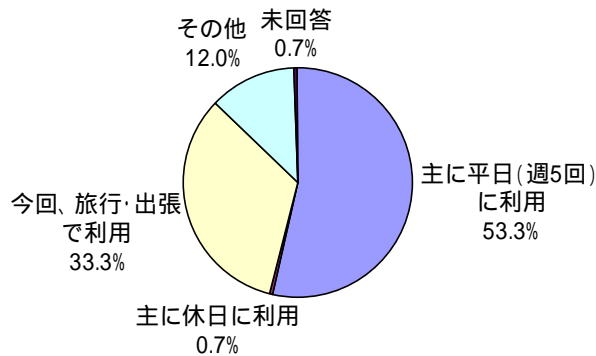
3. 八戸駅アンケート調査結果

(1) 回答総数

150人（回収率 11.6%）

(2) 八戸駅利用状況

主に平日（週5回）に利用が53.3%で半数以上である。



(3) 乗降時間

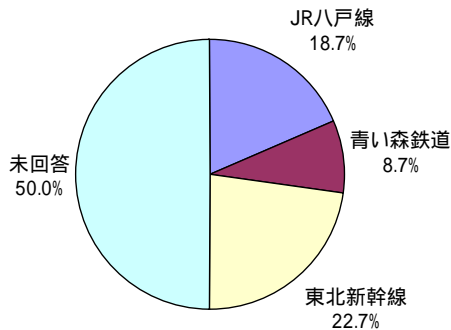
乗車は7時、降車は8時台に等にピークがある。

(4) 列車での移動区間と種別

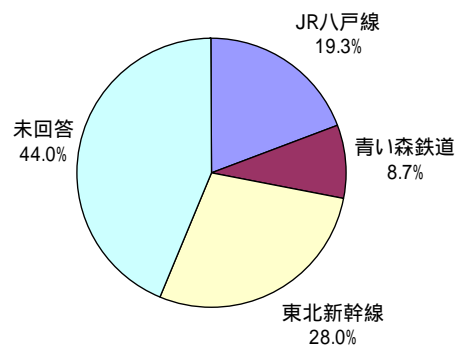
八戸駅から乗車した人の利用路線は東北新幹線が22.7%、JR八戸線が18.7%、青い森鉄道が8.7%。

八戸駅で降車した人が乗車してきた路線は、東北新幹線が28.0%、JR八戸線が19.3%、青い森鉄道が8.7%である。

乗車路線

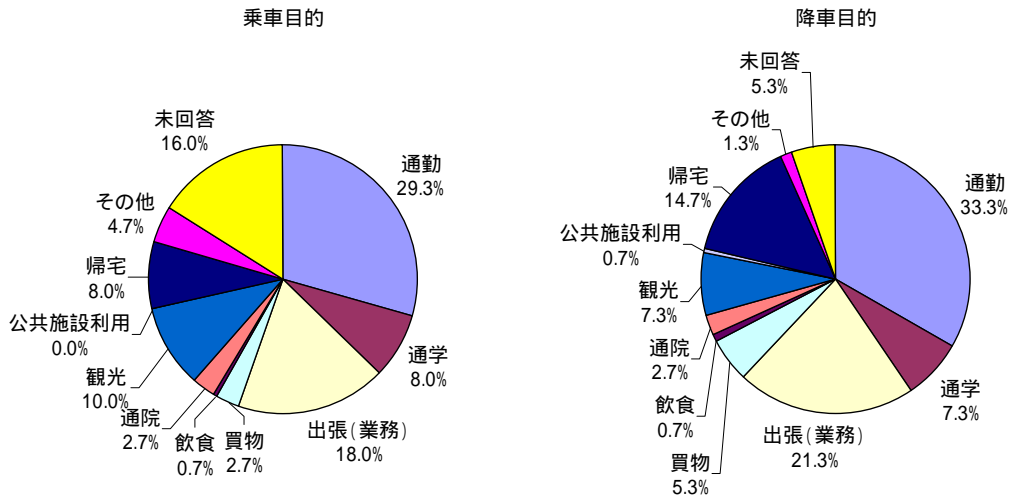


降車路線



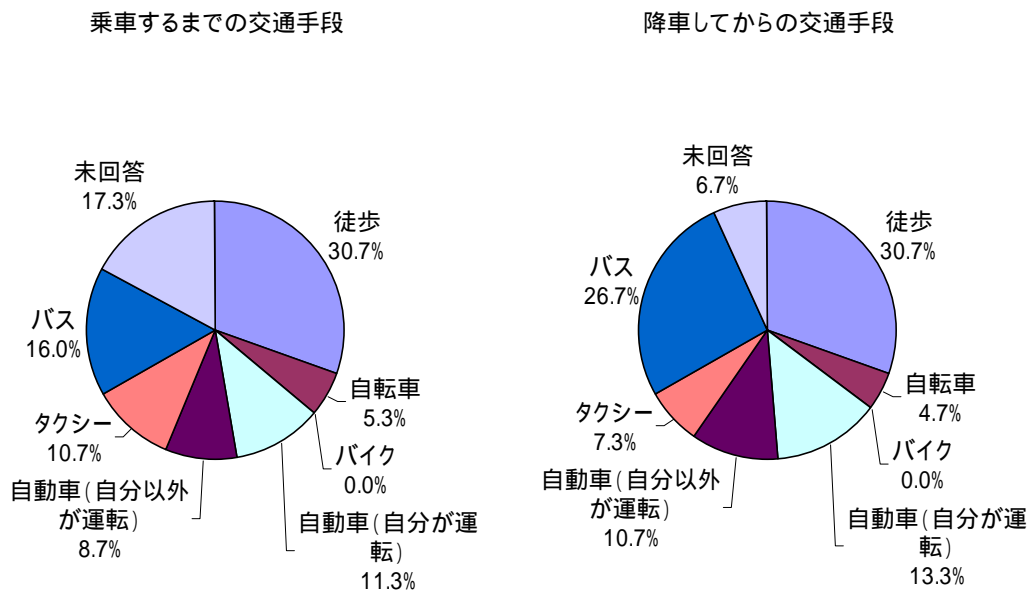
(5) 八戸駅で列車を乗車（または降車）した目的

乗車目的では通勤が29.3%、出張18.0%。降車目的では通勤が33.3%、出張が21.3%である。



(6) 鉄道アクセス

乗車、降車時とも徒歩は30.7%である。降車時はバスへの乗継ぎが26.7%と乗車時16.0%に比較して多い。



(7) 訪問先

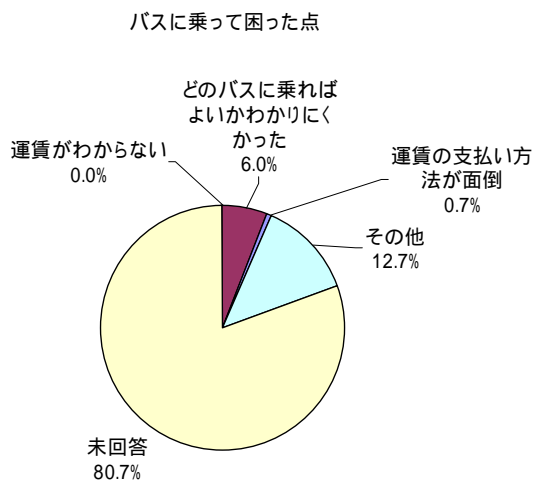
八戸市内が 64.0%、八戸市外が 31.3%である。八戸市内での行先は分散しているが、三日町等が多い。

目的地(八戸市内)	人数	構成比
八戸市内	7	4.7%
三日町	5	3.3%
自宅	4	2.7%
尻内町	4	2.7%
日赤病院	4	2.7%
八食センター	4	2.7%
学校	3	2.0%
通勤地	3	2.0%
八戸南高校	3	2.0%
JR八戸駅	2	1.3%
ホテルメッツ八戸	2	1.3%
卸センター	2	1.3%
河原木	2	1.3%
根城	2	1.3%
小中野	2	1.3%
沼館	2	1.3%
柏崎	2	1.3%
本八戸	2	1.3%
その他	41	27.3%

目的地(八戸市外)	人数	構成比
青森市	13	8.7%
三沢	7	4.7%
仙台市	5	3.3%
鹿児島、宮崎	3	2.0%
盛岡市	3	2.0%
六ヶ所村	2	1.3%
その他	14	9.3%

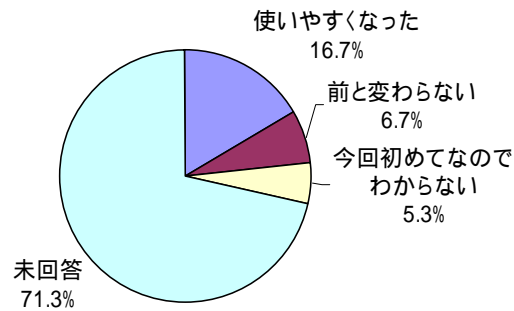
(8) バスに乗って困った点(バス利用者 N=29)

未回答が多いが、どのバスに乗ればよいかわかりにくかった、との回答があった。



その他
4月初めは戸惑いましたが、じきに慣れました。
シャトルバス利用
なし
ホテルシャトルバス
運賃の後払い、先払いをアナウンスして欲しい
近くの施設名のアナウンスが無く、どこで降りればいいのか悩む
困っていない
時間がない
時間が遅い
時間が遅れる
待ち時間が長い
暖房きすぎ
電車の時間に合わせて欲しい
特にありません
便数が少ない
列車からの乗り継ぎ時間が合わないときがある。
列車降車からバス出発の時間が短すぎ、又は、長すぎる

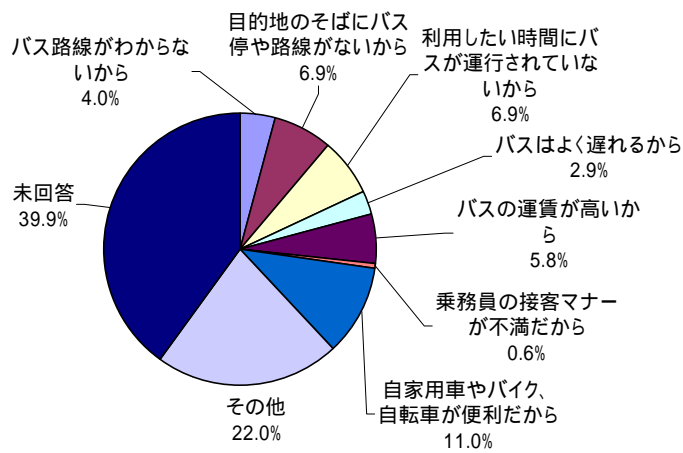
(9) バスの等間隔運行やバス停の方面別運行 (バス利用者 N=29)
等間隔運行について



(10) バスを利用しない理由 (非利用者)

自家用車やバイク、自転車が便利、公共交通の問題としては、目的地のそばにバス路線がない、利用したい時間にバスが運行されていないなどである。

バスを利用しなかった理由



(11) 今後のバスの改善方法 (N = 62)

62 件の回答が有り、情報提供やバス路線に関するもの、鉄道との乗継ぎや運行本数に関するものが多い。鉄道との乗継ぎは、乗継ぎ時間設定に係わるものである。

類型	代表意見例	集計
情報提供	観光客、出張者はもちろん、地元の人ですら現状ではバス停やバス路線を探すのに苦労します。八戸クラスの都市であれば、駅ビルの中の観光案内とは別にバスターミナル近くに有人のバス案内所と大きなバスの路線図の設置が必要だと思います。バス乗り場がわからずに、右往左往している観光客をよく見かけます。	10
	バスの交通運路は地域があまりわからないので、時々把握出来ないときがあります。たまには乗務員の方がいて親切に説明している事もあります。	
	バス停の共通化、発着状況表示機の設置。(金沢では2停留所前の発着状況表示、路線毎)中心街に利用案内所あれば旅行者に便利。	
バス路線	JR 八戸駅を利用しているが、八戸駅から直接本八戸駅に行くバスがあれば利用したいと思っている。(列車の合間)	8
	旭ヶ丘団地から乗車したいが(旭ヶ丘～本八戸駅)バス運行がなく、やむなく他に依頼して自家用車に乗車した。自分勝手な要望とは思いますが…。	
	八戸駅から較までのルートを設定して欲しい。市内中心街で必ず乗り換えしなければならない。	
鉄道との乗継ぎ	市内から八戸駅へのバスについて。電車の発着時刻を考慮した上で、バスの時間を決めてもらいたい。10分、30分、50分にほぼ統一するのはわかりやすいが、不便。	7
	新幹線のはやてで8:37着に合わせて、ウルス学院行きのバスを8:42ごろ出してほしいです。それがないと本当に困ります。よろしく願います。	
	列車の始発や終着に合わせたバスの便があると助かります。	
運行本数	午前6時～7時のバスが、もう少し本数があれば有難いと思っています。特に、6時～6時30分がないので不便に思います。	6
	南高校 敷間のバス(4時)を増やして欲しい。	
	朝の通勤時間帯は、バスを乗継がないと卸センターへ行けないので非常に不便である。	
バスカード導入	南部バス、八戸市営バス、十和田観光? 電鉄? バスで、回数券は共有で買えるのですが、土日祝利用の一日乗車券や、エコバスポートも共有で使えるようにしていただきたいです。	5
	バスカード(共通)があればいいですね。	
	運賃の支払い方法についてです。いつも利用している区間の運賃は前もってわかっているから早めに回数券や現金の準備ができますが、それ以外は、降りる直前までいくらか分らず慌てます。青森市のように、プリペイドカード等の使用が出来ると便利だと感じます。是非とも導入していただきたいと思っています。	
車両運用	乗客が少ない時間帯は、小型バスで運行してみたいかかでしょうか。	4
	バスは目的地から目的地のため、運賃が割高になっている。通勤通学の時間帯は大型バスでも OK。しかし、日中は大型バスだと色々な面でマイナスかも?	
直通バス	八戸駅から直通のバスがないためとても不便なので、改善して欲しいです。(八戸の中心での乗り換えが必要な行き先があるので)	4
	目的地へ行くのに乗り換えが多い。例 - 本八戸から内舟渡、日赤方面、根城ニュータウン	
接客マナー	お年寄りの方に心配りが足りない気が致します。もう少しやさしく接客して欲しいです。	3
	初めて今回八倉センター行きに乗り、卸センター入口で降りる予定だったが、卸センター入口を過ぎたところで車内案内があり(すぐ降車ボタンを押しました)、バス停を過ぎたところで降るされました。しかも中央寄りの車線で、非常に困ります。腹が立ちました。(八戸駅発16:13分です。)	
遅れ	時間通りに運転し、接客の対応をもう少し考えて欲しい	2
のりば環境	私の近くのバス停は「馬場」ですが、駅へ向かっての停留所に今年から屋根付き、椅子付きになり、大変助かっています。また、駅から街に行くバスが、どの会社のバスも1番乗り場、で駅から近く、荷物のあるとき助かります。その反対に駅へ行くとき、降りた場所が駅に近くなり、時間が無いときは有難いです。	1
バス停位置	徒歩だと20分はかかる。暖かい時は自転車を利用しますが、冬はバスを利用したいのですが、西口ではなく東口にしかバスが停まらないので、遠回りになる。八戸西口にもバス停があると便利になると思う。	1
ワンコインバス	ワンコインバスで循環型の方が老人に優しいと思う	1
運行時間帯	運行時間帯を広げて欲しい	1
運賃	中心街中心にダイヤが組まれているが、周辺地区は通勤にも自家用車でなければならぬドーナツ型都市になってきている。バス利用者は高齢者中心なのに、バス料金が高い。低料金の定期券をもらえる年齢には外出できなくなる人も多い。年齢の引き下げ検討。	1
終発時間	居住地は尻内町で度々市内(中心)へ飲みに出かけるが、最終バスの時間が早すぎる。0時前位まで運行してくれると助かると思っています。(酔ってからまわれるので最終発が早いのでしょうか?)	1
停留所配置	八戸駅停留所 内舟渡間の停留所も停車して欲しい	1
鉄道サービス	JR 八戸線を新しくしたらいいかかでしょうか	1
利便性	八戸駅 - 中心街は使いやすくなりました。便利。	1
その他	私の足になって欲しいです。現在は助かっています。(70歳女性)	9
	・タクシーとの連携(相互割引制度) - 問9.2関連・さらなる小型化 運賃抑制・バス停かバスの内外にデジタルサイネージ設置し、広告収入 UP	

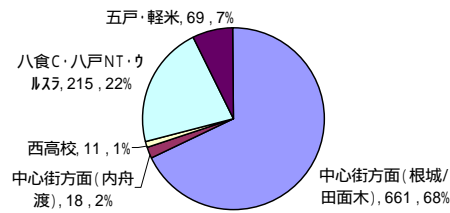
4. 八戸駅バス乗降調査結果

(1) 1日当たり乗車人員

1日の総乗車人数は974人となった。

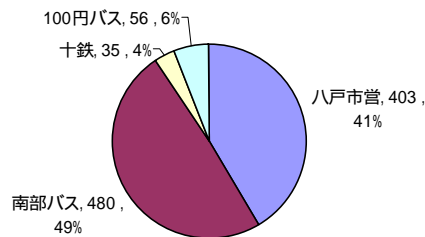
方面別では、中心街（根城大橋/田面木経由）方面が661人（68%）、八食センター・八戸ニュータウン・聖ウルスラ学園方面が215人（22%）を占める。

方面別乗車人員(人/日)



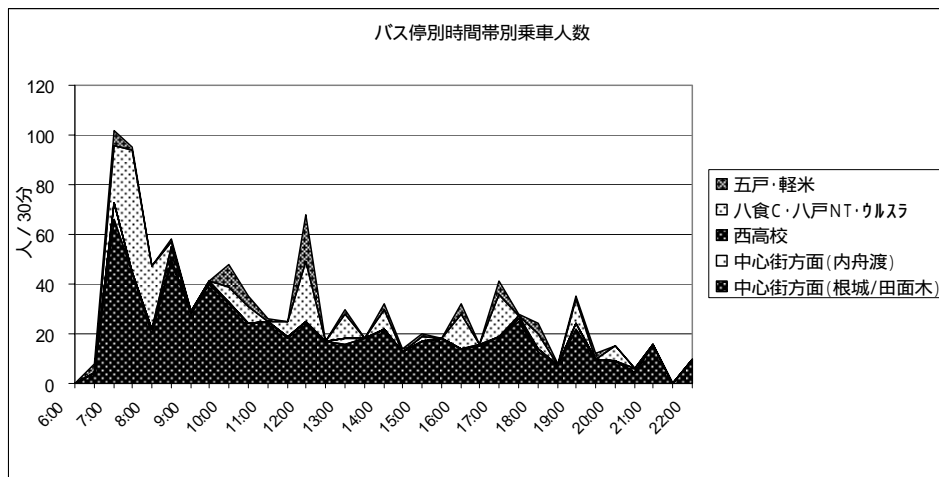
また、事業会社別では、南部バスが480人*（49%）*、八戸市営バスが403人（41%）、十和田観光電鉄が35人（4%）を占める。なお、南部バスに100円バスを加えると536人（55%）となる。

バス会社別乗車人員(人/日)



(2) 時間帯別乗車人員

時間帯別の乗車人員は、中心街への利用者と聖ウルスラ学院への通学者の利用が重なる7:00~7:30がピークであり、その後、のこぎり歯状に暫減している。これは、新幹線の到着が毎時0分前後になっているため、毎時0分~30分の方が多いいことを示している。

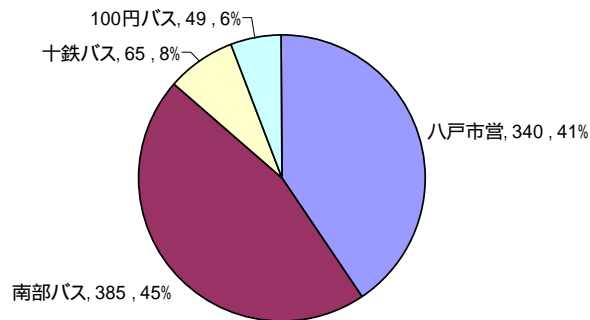


(3) 1日あたりの降車人数

1日の総降車人数は839人であり、乗車人数974人に対し、86%と減少している。

事業者別では、南部バスが380人*(45%)*、八戸市営バスが340人(41%)、十和田観光電鉄が65人(8%)を占める。なお、南部バスに100円バスを加えると429人(51%)となる。

バス事業者別降車人数(人/日)



(4) 時間帯別(30分間隔)の降車人数

降車のピークは朝の7時前後、昼11時前後、夕方19時前後となっている。

